

＝市民の声募集中＝

市政に思う

今回も4人の方に市民の声をお願いしました。

現在市民の声を募集しています。

《問い合わせ先》議会広報特別委員会 ☎42-6310

市民の声

江田島市地域経済活性化について

江田島市商工会会長 平田 圭司



江田島市地域経済においては他の中山間地域と同様、後継者不足を起因とする経営者の高齢化や労働人口の減少、都市部への購買流出や人口減少を主因とする売上不振など、様々な要因で廃業する事業者が増加し、平成12年に約103.4億円であった市内総生産額は平成24年には約625億円にまで減少し、依然として厳しい状況に直面しています。

工会が中心となり「地域経済の活性化」を目的とした5年後の「江田島市のあるべき姿」を描き、具体的に取組む5カ年計画を策定し、これに基づき、行政・農協・漁協・社協・観光協会・商工会を交えた「江田島市地域資源活用委員会」を設立し、市外からより多くの外貨を獲得する事業を進めていくため、全国に誇れる市の基幹産業である農・水産物を中心に、その他数々の特産物の魅力を積極的に関東・関西へ

情報発信を行い、商談会など販路拡大を強力に推進して、江田島市のブランド力を高める事で高付加価値化を促し、産地間競争に勝ち残る事を目指してまいります。

またその他の取組として、「江田島市観光グルマガイド」を作成し地域の「食」の魅力を発信することで、一人でも多くの観光客に江田島市を訪れていただくための事業や、Uターンや移住者の方が起業される事を支援するための「創業塾」開催等、様々な事業を総合的に、将来的には道の駅等の整備の検討を含め、観光振興・雇用創出・定住促進・人口減少の歯止めを繋げていければと思っております。

江田島交流人口百万人

江田島市商工会副会長 宇根川 昭男



今行政は「交流人口百万人が目標です。」と大きく掲げている。その代表がサイクリング入島人口の増加である。その人たちにわざわざこの島に来なくてもその人たちの地元でいいのでないですかと聞いたことがある。そうすると「江田島市は一日ツーリングして適宜に住居地に帰ることができると大変いいところですよ」という返事が返ってくる。

私たちは島に生活してきてさほど島の良さは感じることはない。もう一つの交流人口増加要素にあげられるのが民泊修学旅行である。生徒に江田島の感想を聞いてみると私たちが島で生活する上では無意識に感じていたことが、ある意味有意義なものであったことに気づかされたことにビックリしている。

このような立派な作品を見てるといっそスマホ社会の現在にマッチした、Wifiを整備し、作品にある「魅力の地を訪ね歩く」と題して撮影

場所の紹介した企画をしてはと思います。現在の作品発表だけでは一過性の年中行事で終わってしまうのでは？住民の皆さんが折角江田島に住んでいて、江田島を一言で紹介すると海上自衛隊第一術科学校がある島ですというだけでなく、島の良さ・素晴らしさを再確認していただければと思います。

市政に思う

江田島市商工会副会長 井上 雅夫



広島港より能美への帰宅の途上、いつも高速艇から江田島湾を望むとき、島々の景観にほっとします。江田島市と広島市や呉市とは1日23往復の能美〜広島航路は、市内の各港より7航路で結ばれており重要な交通インフラとなっています。通勤・通学をはじめ通院・ショッピングなど市民の生活に直結しており、また観光客の来島への大切な手段ともなっております。

しかしながら運行時間の間隔・料金など利用者には不便と感ずることも多々あります。現在、江田島市へのアクセスとして第2音戸大橋の開通により陸路のウェイトが飛躍的に高まっています。ただ陸路をバスなどの運行による公共交通機関で呉市や広島市へアクセスする路線は皆無です。

遅れがちな道路交通網に頼ることなく、現存する海上交通の国道化などにより運行間隔・料金面などで利便を図れば、利用者増加により地域の活性化につながるのではという思いに駆られてなりません。

公共交通機関には高速化・安全性などのサービスが一段と求められる昨今です。今後の江田島市の観光・商工業の発展には市外からの入込客の増加が最重要課題であり、

魅力発信に工夫を 光と影

江田島市商工会青年部 迫 寛和



鳥での生活を離れて2年。私は地元沖美町に帰り、変貌ぶりに驚愕した町を歩き見渡せば空き家が増え、かつて賑わいがあった納涼祭はなくなり唯一残された「かきカキマラソン大会」は毎年のように最後かも知れず、バスの本数も減り保育園・小・中学校の入学も毎年のように減り続け、我故郷の衰退に心痛める毎日だ。少子高齢化は今に始まった訳でもないが、

江田島市には、今以上に若者の移住者誘致に力を入れてもらいたい。また、海・山に囲まれ豊富な資源から確立されてきた農・水産業において、その先を作る六次産業と言われている経営の多角化にも、もっと力を入れて取り組んで欲しい。

昨今、サイクリストに人気のある江田島市だからこそ早急に戦略を打って欲しい事もある。私の地元沖美町で先日、十人近くのサイクリストにこう言われた。

「沖美町にはカキ屋さんも無人野菜販売所もたくさんあるのに土産を買える所は何もない。魅力があるのに勿体ない」と。対岸の宇品港からフェリーで四十分と好立地にありながら魅力・情報を発信する施設もなければ、かつて町を盛り上げようと頑張ってきた先輩方の座りかかった尻を持ち上げるような前向きな話もない。人口の多い所からすると当たり前かもしれないが、光が当たらないと思われている町にも輝くものはある。